

わたぼうし新聞 第7号

発行者 わたぼうし連絡会

発行日 1986年(昭和61年)9月15日

この世は こんなにも いのちであふれ
切ないにぎやかさが 胸をしめつけます
あなたに ほほえみを下さい 春の青空の
それだけで わたしは 充たされてしまいます
この世はこんなにも 光であふれ
美しい命の歌が胸を ときめかせます
あなた ほほえみを下さい
秋のライトブルーのそれだけで
わたしは生きておわるのです

～子猫物語より～

『この新聞は障害のある人、ない人が自由にそれぞれの考え等を出し合い、主義、主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。』

第7号の特集「障害者にとって恋愛・結婚とは」

このコーナーは、あるテーマについて、さまざまな人たちに意見を述べてもらうコーナーです。今回のテーマは「障害者にとって恋愛・結婚とは」です。

障害者にとって恋愛・結婚は君の人生の大事業だ 地域住民・障害者

まだ雪の降る3月初旬編集部よりこのテーマについての原稿の依頼があった。「いや?! 私に対しての嫌みみたいナ」と返した。というのは私は過去に「結婚」という事業に失敗しているからである。しかし再婚の夢を捨てたわけではない。

スバリ結論から“障害者にとって恋愛・結婚“は大いに賛成だ! いや。やらなければならない君の人生の課題だ。人生の大事業だ!

一部の人の言う独身主義とか独身貴族等の言葉は、健常者にだけ通用する言葉だ。障害者だからこそ共に生きる伴侶が必要なんだ! たとえ障害者といえどもこの世に生を受けた以上立派な人間であろう。人間誰しもある一定の歳に達すると異性に興味を持つのが本能であろう。何も人間ばかりじゃなく動物も同じである。“異性に興味“これこそ恋愛の始まりで、この恋愛が発展して結婚につながる。

次に“結婚の意味、あるいは原点“をさぐってみたい。昨日のまで他人であった男女が、「結婚式」という日を境に「夫婦」という太い鎖に継がれ、一つ屋根の下に共に社会生活等をする事は、皆さんの承知の通りだね。

さて、結婚生活とは夫婦互いに助け合い、いたわり合い、苦楽を分かち合いながら生きて行くことである。言い換えれば“夫婦愛“すなわち『愛』である。その副産物として子供が出来るのは当然であり、二人で産んだ子供は二人で育てなければならない。

この恋愛・結婚・子育ての事業において、障害者だから許されない、又はしてはいけない、ということは何一つないはずである。夫婦お互いの正しい理解と協力で立派に出来ることである。そこから生まれてくる「幸福感」だの「生きがい」は、当の本人たちだけしかわからないもので、他人には全く関係のない事ではないだろうか。言葉を替えるならば、この「幸福」だの「生きがい」だのを計る物差しはどこにも売っていないだろう。

ただこの長い事業において、経済問題が大きな比重になる。夫婦又はどちらかに障害があつて、この事業に必要な経費が得られないとしたら、障害者にとって「結婚」は不可能と言わねばならない。その経費を得る手段はどこにでもある筈だ!! 自分の考え次第だ! カンバレ結婚、オオ夫婦! 障害者人生バンザイ!! この人生に乾杯!!

結婚について思うこと 障害者施設・利用者

私にとって結婚とは夢です。今まで私と同じ歳の人が結婚していくのを見ていて、うらやましくもあり、なんで自分だけが出来ないのだろうと思ってきました。結婚は人生の墓場という言葉があるように、私が思っているように楽しいことばかりじゃないと友たちから聞かされて、少しは結婚についての考えが変わりましたが・・・やはり結婚はしたいと思う。夫や子供が心の支えになっている人もいるし、私の心の支えになってくれる人が欲しいのだけど・・・一生夫や子供を愛して行けるかと考えると自信がないし、結婚したら夫に自分を合わせて行けるかわからない。自分を殺してまで夫について行きたくないとも思う。(もし結婚したとしても、子供を産めるかどうかわからない。)緊張が出るし、薬を飲んでるので難しいと思っている。

障害を持っているの結婚は本当に難しいと思います。結婚するとしたら、お互いの気持ちと一緒にあったときにしないとダメだと思う。それを逃したら、なかなか出来ないと思いますし、付き合い出したら、二人の時間を多く持つことも大切な事だと思います。

結婚・・・やはり私には夢で終わるのかな？たとえ夢で終わってもいいのです。人を愛することは出来たのだから・・・今からも愛することだけは出来るのだから・・・でも人を愛することはひどいです。本当に・・・

結婚 障害者福祉工場・利用者

結婚って何？単に漢字の意味を考えると、ある「日」、「女」と「氏」が「結」ばれるということだろうが、私はそれを取り巻く日本の文化と習慣を考えてみた。

日本では、結婚そのものの意味より『結婚式』というものが重大視されているような気がする。お金を投じれば投じるほど、豪華な挙式になるのは当たり前だ。人間の“力”または“権力”は物事を大きく見せることによって、それを示す一種のパフォーマンスなのだろう。

私は結婚という意味それ自体は単純だと思うが、やはり人生を二人で生きてきたという足跡が意味深いと思う。最初は「手鍋下げても」からでよいと思うが、二人が50歳くらいになった時、世間が二人をどれだけ認めているかが、本当の結婚の意味だと思う。その時こそ、二人（本人自身）の手によって祝宴を行えばよいのだと思う。

しかし、日本の習慣は替えられないだろう。特に日本人は体裁家だから、財を投じることによって何故か安心だと思い、気を紛らしているのかも知れない。“幸”（しあわせ）の意味をわざと深く考えようとしたくないのかも知れない。また、これから何が起るかわからない不安を勢いでかき消そうとしているのかも知れない。

日本の文化、習慣の中で結婚という意味をこだわって考えてみると、「人間って面白いなあ」と笑ってしまうだろう。

障害者の結婚問題について ～親の立場から～

障害者を持つ親として、今までの体験を少し書きたいと思います。障害者の結婚問題とは深刻な問題である。

私にも昭和32年に長男が生まれ、3歳の時、突然40度の高熱を出し、私はびっくりして大学病院へ連れて行きました。そこで検査の結果、脊髄小児麻痺とは診断されました。数日後には、もう手足が動かず私たち夫婦もびっくりしました。その後、数ヶ月間大学病院に入院していました。

しかし、大学病院には長い間入院していることが出来ず、知人の紹介で金沢市平和町の石川整肢学園に入園しました。学校は小学校は石川整肢学園で、中高校は野々市の養護学校に進ませました。高校の春休み、夏休みに家に帰ると、車が大好きなのか、部屋一杯に車の写真を壁に貼って、楽しむ始末でした。高校3年の時、私は本人が歩けないので、将来は車で用事をするようにしなければ、いけないと思って自動車学校に送り迎えをしました。その結果、おかげで一ヶ月後に見事、運転免許を取得しました。私は非常に嬉しく思いました。

これで外歩きは、何とかやって行けると安心していましたが、次の問題は仕事の問題です。学校卒業近くになりますと、本人が自分から希望して、愛知県の訓練校に行って、建築設計の道をやりたいと言ったので、私はびっくりしました。きっと自分の将来のことを考えているのだろうと思いました。

2年間の勉強を終え、家に帰って設計の図面を見ると、私もびっくりするほどの出来栄です。これなら大丈夫と私も安心しました。家に帰ってある設計事務所に勤め、数ヶ月後に2級の資格を取り、知人からも図面を頼まれて本人もやる気満々の様子でした。

さて、次は結婚問題です。ある日、一人の女性を連れてきて、この女性と交際しているとのことでした。私もこれがチャンスとばかりに結婚の話を出しますと、両方とも乗り気充分になったのです。話がどんどん進んで、昭和55年の春にめでたく結婚にゴールインしました。その後、女の子が生まれています。

今では、自宅の2階を設計事務所にして独立して、二人仲良くやっている姿は、私は驚くばかりです。今日までやってこられたのは、本人の努力も去ることなら、親としても側面から見てやらなければと思う。障害者でもチャンスがあれば、チャンスを生かす心が必要である。チャンスがあれば最大限活かすことが大事であると思う。

編集局より

結婚しない人や離婚がだんだんと増えている現代社会、改めて結婚とは何なのか問われています。生きていく上での楽しいこと、苦しいことを分かち合うことが出来るお互いを持つことが出来ることは、それだけで大変素晴らしいことではないでしょうか？

金沢市のK. Tさんの最後の文章「チャンスを生かす心が必要である」が、大切だと思います。尚、次回のテーマは「新年金制度について」です。広く原稿を募集します。

人・ひと・ヒト 人物紹介

人って、不思議だなあと思ったことはありませんか。皆さんの回りにもたくさんの方がいると思います。3月11日、医王病院でインタビューしたものです。

- ・名前 出身地 T.Kさん。(医王病院に12歳から入院) 富山市山室出身
- ・年齢 24歳 5月生れ
- ・趣味 多彩 読書、音楽鑑賞、長電話、七宝焼き、映画鑑賞
今、一番興味を持っていること 芝居(演劇)
きっかけは、アカシア社という劇団に誘われて、1回やって、何回かするうちに好きになった。
- ・夢

ここ(病院)を出て、みんなと暮らしたい。自分では、あまり好きでない言葉だが、俗に言う「自立」して、みんなと暮らしたい。劇作家になりたい。(放送作家)

動機としては、今やっている劇団のシナリオを書いて面白いと思ったからです。今の段階として通信教育の放送作家コースも受けたいと思っている。

(これから後は、問答形式です。自由に語ってもらいました。)

Q. どんなシナリオを書いていますか？(どんなものが好きですか)

A. シナリオは時代劇が好き。倉本総のほのぼのとした暖かいところが好きです。自分としても、ほのぼのとした暖かいものの中に現代の社会の中に埋もれている問題点を掘り起こして、突き返したい。

Q. 劇団に入って入るということですが、演技の方はどうですか

A. 今は書く方が好き。演技はちょっと向いていないみたい。自分としては今とにかく一にも二にも演劇であり、今やっている劇団を成功させたい。劇団の活動としては、地域とのコミュニケーションを重視して小さいところでもいいからやりたい。今はミュージカルを考えている。E. Tの様なノスタルジックなものを一緒に楽しくやりたい。

- ・健常者と障害者が一緒にやっていて違和感のないもの(同じレベルで自然にやれるものではなく、軽い気持ちで演劇の立場から見られるようなもの)

Q. アメリカに行きたいと言うことですが、その夢は？

A. 行きたいという夢は持っているが、地道にやって行きたい。アメリカに行くにはもっとポリシーを固めてから行きたい。そして、行けたらアメリカの障害者の考えを聞きたい。違った国の人々の意見を聞き、視野を広めたい。
最後にアカシア(劇団)の活動が自分の基本となっている。自分の信念に従って、自分とやってくれる人たちと活動していきたい。心の汗と涙を絞ってみたい。

インタビューを終えて

生きることに対して、とても意欲的であり前向きな姿勢を持っている方だなあと考えた。常に新しい目標を持ち、自分を一步一步高めているという感じがした。

人間がキラキラ輝いているためには、自分に情熱を注ぐことの出来るものを持つことであると思う。

編集局より

このコーナーはいかがでしたか？皆さんの意見をお聞かせ下さい。また、是非紹介したい人がいましたら、どんどんお寄せ下さい。インタビューにお伺いし、あるいは致します。あなたも友たちの輪を広げてみませんか？

紙面作りにご協力を・メッセージを待っています。

「わたぼうし文芸コーナー」

届けて下さい 障害者支援施設・利用者

この手で選べなかった チョコレートだけど
届けてください リボンは
わたしが一番好きな 雪解けの空の色
おにぎりみたいな 三角山のすそを
すみきって流れ出す 水のさわやかさ
吹雪の中 帰って行った 赤いセーター
貴方のやさしさが 溶かしたしずくの 春のお返しです

孤独者たちへ 障害者支援施設・利用者

だれか 必ず一人ぼっちじゃありませんか？
僕も本当は寂しがりやの 孤独者なんです
だから みんなから冷たくされて
嫌われるのです 冬の風みたいに
でもね この前に 道を歩いていたら
外国の人に 声をかけられました
「君、足が悪いんだね、でも、いつかきっと、なおる日が来るよ、ガンバツテね！」と
何だか心の中が 暖まったような気がした
あの人に「ありがとう」つぶやきたい
きっと あの人は僕の

足長おじさんかも知れない
また 会ってみたい 会って色々会話をしてみたい
そうしたら 心の中の孤独者が
どこかに行ってしまうかもしれない

宛てもないお便り 地域住民・障害者

拝啓 5月は、1年の中で一番好きな月です。日が長くて、いつまでも明るい感じがして、
ひどく、寒くも、暑くもなく、お花が一杯咲きますからね。

あなたは、どの月がお好き？ 日本は、四季折々、変化に富んだ国です。それに合わせて、
人の服装も色々と変わります。と、同時に、心も変化してくるでしょう。寒い冬の時は、
もうソロソロだと冬将軍に、身構え、暑い夏は、どうしたら涼しくなれるかと、昔の
人は、色々と工夫をしたのだらうと思います。

今は、とても簡単に、暖かくも、寒くも出来ます。

人の構造も簡単に(?) なってきたのかなと、ふとそんな思いがして、ぼんやりペンを
置きます。 草々

ひとりごと 地域住民・障害者

わがままじゃなくってさ
自分に正直なだけだろ
ほんの少しのすれ違いや
行き違いに戸惑いながら
必死に……らしさを装い続けるなんて
微かに触れただけで壊れてしまいそうな
少女に見えたけど いつでも優しくして
暖かくて そして輝いていてほしい
そして振り返ることなく
自分を信じて歩んでほしいから
一瞬の鼓動をも
逃さず見守っていたいから

一川 柳一 地域住民・障害者

子同志廊下で語る恋

- ・美しい愛に育った指話と指話
- ・今日から苗字が変わる嬉しい日
- ・家系図を遺すに凸と凹がいる
- ・金婚式いわば夫婦の腐れ縁 比呂雪

(古い川柳台帳より)

自由投稿コーナー

子育てに欠かせぬもの 福井 達雨先生 昨年9月講演会より

会場；七尾聖書教会

福井 達雨氏について

福井先生は、滋賀県にある重い知恵遅れの子供たちの施設止揚学園の園長です。この先生の口癖は「目に見えるものより、目に見えないものが大切である」だそうで、いつも唱えているそうです。この先生の講演が昨年9月に七尾で行われましたので、その様子を七尾聖書教会・牧師先生に、書いていただきました。

今回の講演の主タイトルは『子供の笑顔を消さないで』。福井先生の働きを見るときにそこに本人の信仰、キリスト教を抜きにして語ることは出来ません。大学時代にふざけ半分で自分が行った精神薄弱児施設、しかし、そこで子供たちとの最初の出会いによって、若くして召されたクリスチャンのために捧げることになった。“偉い人よりも、立派な人になれ”“私たちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ”(聖書)これが母の最後の言葉でしたといわれる。

今回先にあげた主題でお話ししていただき、その根本になっているものを考えるときに、今の教育の問題、いや人間生きる全ての問題解決はもはや方法論ではないことを痛感しました。現代の様々な問題は無知にあるのではなく、無力にあるのだと誰かが言われましたが、まさにそうなのです。子育て、若い人の自殺が後を絶ちませんが、誰でも多少なりとも命の尊さを知っているのです。しかし、福井先生がよく言われる『目に見えない、耳にも届かない言葉がある。それが僕にとってキリストが語りたもう言葉のように聞こえてなんのです』。こんな視点から子供を、人間関係を命で知ることこそ、今欠けている点であることは私も深く同感するところであります。

そして実は知っていても出来ない無力が(正しい愛、生き方など)『僕は運動をしてこなかった。信仰を通した一つの行動をしてきたのです』。と逆に言わせて、信仰の生き方こそ力であったと言わしめています。

自分の子供だから、好きだから、何か生きがいのある生涯だから、少しでも援助になれば・・・そんなこと以上に神に生かされているかけがえのない生涯であることに自ら感動することと同時に他人の中にも見て、それが子供であれ、障害者であれ、『ためにではなく共に』生きる福祉を唱える姿に深い感動を覚えるのです。

医療ソーシャルワーカー 障害者施設職員

病気にかかる人は誰でも病院で治療を受けます。特にその中でも治療が長期になる人たちにとっては、病気に対する不安はもちろん、様々な問題や心配事が生じてきます。健康なときにはそれほど思い悩まなかったこと、例えば経済的なこと、付き添いのこと、仕事のこと、子供の将来のこと等計り知れないものがあります。

そうした中で、本人や家族が悩み苦しんでいると思います。「誰かに相談したい、力になってもらいたい」「医者や看護婦に相談したい、でも大変忙しそうだ」なかなか言い表せないのが本当だと思います。そんな時に患者さんやその家族の心配事を聞き、協力するのが医療ソーシャルワーカーです。そして患者さんが治療に専念し、治療効果が上がるように援助する役です。なかなか大変な仕事です。でも現在の医療体制の中ではなくてはならない職種であると思っています。まだまだ十分に配置されておりませんが、今後必ず増えてくると信じております。

皆さんも自分が病気にかかったら、医療ソーシャルワーカーのいる病院で治療を受けて下さい。そして心配事があったらワーカーを大いに利用してみてください。

ごあいさつ 元障害者施設職員

わたぼうしの皆さん、お元気ですか。私は今年3月末に石川県身体障害者更生指導所を辞めまして、少しずつ落ち着きながら膝や腰のリハビリに通療しています。永い間ありがとうございました。

昭和28年から更生指導所で、障害者のいろんな問題に関わってきました、少しは理解しているつもりでございましたが、通療の身になって始めて、その理解の度合いは、まだまだ浅いものであることに気づき恥ずかしく思っているこの頃です。

全治しないと思いますが、少しよくなったら出来る事があれば、又皆さんのお役に立ちたいと思っております。その節はよろしくお願い申し上げます。終わりに

「車椅子そこのけそこのけ戦車がとおる」。などといわなくても良いように、わたぼうしの皆さんの活躍と団結をお祈りいたします。

このコーナーは、何でも言いたいこと、考えていること等を自由に掲載するコーナーです。字数は紙面の関係上800字まで。原稿はお返ししません。ご了承下さい。新聞に対するご意見、ご批判でも結構です。お気軽に投稿してください。お待ちしております。

団体紹介コーナー

我々にも働く場を 福祉の店「リーフレットライフ」

昭和58年に創業したリーフレットライフも4年目を迎えました。障害者の社会参加と職業能力の開発と促進を目標にして、現在4名で頑張っています。

現在は車いすに乗っているという社会的ハンディキャップをノウハウとして、たくさんの方々に提供しようと在宅医療を中心に住宅改造の中の車いす、医療ベッドなど、日常生活用品を障害者の立場から考えています。

これからも一緒にやりたいという人がいれば積極的に働いてもらい、障害者の働く場の和を広めたいと思っています。今後とも頑張りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

〒921 金沢市米丸町109番地
リーフレットライフ
☎ 0762-91-5428

催し物紹介コーナー

☆石川県身体障害者体育大会]

期 日：9月28日（日）

場 所：石川県西部緑地公園(雨天中止)

☆青山彩光苑文化祭

期 日：10月26日（日）

場 所：青山彩光苑（七尾市青山町）

演劇、バザー、作品展などがあります。

☆'86つくしのコンサート

期 日：9月23日（火）（秋分の日）

場 所：富山県民会館大ホール

施設紹介3

重度障害者授産施設とは？

重度の身体障害のため、ある程度の作業能力を有しながら、特別な設備と職員を準備しなければ終業不可能の身体障害者を収容し、施設内で自活させることを目的とする施設。

県内の該当施設 〒929-14 加賀市潮津町ム69-1

南陽園 ☎ 0761-74-6613

本の紹介

孤独のとなり

三浦 綾子著 角川文庫 ¥340

孤独は単に寂しいなどというものではない。もっと深く、すべてのものを拒絶する姿だ。人は孤独を凝視しつつ、何かを求めなければならない。

恋愛、結婚について、他人の思いやり、人間の生きがい等々を語りつつ、篤い信仰の心と他人への暖かい思いに満ちた著者が限らない愛と明日への希望を説く人生論。

負けずにキザですが

NHKアナウンサー 松平 定知著 講談社 ¥980

NHKきつての熱血アナウンサーが初めてその素顔を明かす痛快エッセイ集。初任地の高知放送局時代から以前担当の7時のニュースまでのエピソードが書かれている。

私は胴長短足、典型的な日本人の体型。「カッコヨサ」とはおよそ無縁です。「キザ」と言うのは、多少なりとも「カッコイイ」と言った素地のある人の言動が、人々の眼にそう映るわけで、私ごときがいくらガンバッテもそれは滑稽としか映りません。

(前書きより)

編集後記

移り変わるときの早さと加えて、編集委員の身辺も4月から色々と変動があって大幅に発行が遅れたことをお詫びいたします。

夏から秋にかけて1年中で一番、たくさんの行事が催されている時期です。

一步離れて、これでいいのかに本列島、平和とはなんぞや?等々考えさせる時節でもあります。

当新聞に寄せられた何気ない文章や詩から、ふと感じるものが多いのは、そこには一人一人の込められた願いと本音があるからなのでしょうかね?

ご意見、ご批判、および原稿を広く募集します。8号のテーマは「新年金制度について」です。